

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2011～2015

課題番号：23242019

研究課題名(和文)羌系諸語の歴史と西夏語の位置づけに関する実証的研究

研究課題名(英文)A historical Research on Qiangic languages and Tangut.

研究代表者

池田 巧 (IKEDA, Takumi)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：90259250

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 39,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではチベット＝ビルマ諸語なかでも史的研究に重要な位置を占める羌系諸語と彝系の言語について現代諸方言のデータを集め、文献記録に見える言語資料との比較を行うことで、歴史上の死語である西夏語を含む羌系諸言語の類型構造の歴史的発展を跡づける分析を行った。現地調査によるデータを分析して類型構造を明らかにするとともに文献解読の成果を参照しつつ歴史的発展の諸相を解明すべく実証的考察を行なった。分析は漢語を含む周辺の諸言語にまで拡大して比較対照を試みた。研究作業を進めるにあたり、チベット・ビルマ諸語の研究者が蓄積してきた知見およびデータを連携・統合して、相互利用を可能にするシステムの基盤を整備した。

研究成果の概要(英文)：We collected dialect data of the Qiangic and Lolo languages, which are important for historical study on the Tibeto-Burman languages family. We also conducted a comparative study between the written languages of historical documents and modern dialect data in order to elucidate the variety of issues in the historical development of typological structures in the Qiangic branch of the Tibeto-Burman languages including Xixia(Tangut). The demonstrating research process went on in the two directions: Analyzing the dialect data and clarify the aspects of the structure of living languages; Consulting the results of the decipherment of old documents in ethnic scripts and clarify the historical development of the structure of written languages. We expanded the subject to a comparison of the neighboring languages related to Tibeto-Burman such as Chinese. And we tried to construct a cross reference system as a data base of a rich store of knowledge and new data on Sino-Tibetan languages.

研究分野：シナ＝チベット諸語の方言史研究

キーワード：羌系諸語 西夏語 チベット・ビルマ語 歴史言語学 記述言語学

1. 研究開始当初の背景

羌(チアン)は中国における最も古い民族のひとつとして史書に登場し、中国の歴史のさまざまな段階で重要な役割を演じてきた。現代の羌族は、国家の認定する少数民族であり、独特の伝統文化を継承してきている。羌系の諸言語は、チベット=ビルマ諸語の歴史的発展の諸相の解明において極めて重要な位置を占めることから、東アジアと東南アジアの言語史研究者の注目を集め、記述調査が進むにつれて言語構造の類型特徴が徐々に明らかにされつつある。

2. 研究の目的

本研究は未記述の羌系諸語の調査研究を進めるとともに、文献記録に見える言語データとの比較を行うことで、歴史上の死語である西夏語を含む羌系諸語の系譜および系統関係を検証し、その類型構造の発展の歴史を跡づけることを目的とする。同時に研究作業を進める基盤として、チベット=ビルマ諸語の研究者が個別に蓄積してきた知見およびデータを連携・統合して、相互利用を可能にするシステムを構築したい。

3. 研究の方法

未記述言語の調査は、チベット=ビルマ諸語のなかでも史的研究に重要な位置を占める羌系と彝系の諸言語を主たる対象として、中国の連携研究者の協力のもとでデータの収集を行なう。

史的研究においては、文献解読の研究成果を参照しつつ類型構造の分析を行ない、現地調査のデータと比較して、その歴史的発展の過程を解明する実証的研究を行なう。同時にその基盤となる資料庫を構築する。具体的な研究項目は、以下のとおり。

- [1] 羌語方言の記述調査研究
- [2] ムニャ語と西夏語の対応研究
- [3] 西番譯語に記録された羌系諸語の復元
- [4] 西夏文献資料庫の仕様策定
- [5] 藏緬語族語彙資料庫の構築
- [6] 彝文字文献資料庫の仕様策定

この6項目は、いずれも相互に関連しながら補完的にチベット=ビルマ諸語の類型構造の史的発展の諸相と方向性を明らかにし得る重要な研究作業である。

このほか、チベット=ビルマ語と周辺諸語の類型構造を記述して、比較対照しつつ分析を行なうための研究会を組織する。

4. 研究成果

[1] 中国四川省に分布する羌系諸語について現地調査を行ない、現代方言のデータを収集した。中国の連携研究者である黄成龍研究員、周發成研究員が未記述の羌語方言である黒水方言を調査したほか、代表者の池田が羌

系のムニャ語およびリュズ語の方言、チベット語の雲南方言、ブータンに話される南チベット方言の調査を行ない、連携研究者の長野泰彦教授がギャロン語の方言、また黄成龍研究員がナムイ語の方言をそれぞれ調査し、類型構造の記述分析を行なった。

[2] ムニャ語と隣接する優勢言語のチベット語カム方言を対比して文法構造の発展における影響の有無を検証した。ムニャ語の話し手はチベット族として近年まで日常生活ではチベット語カム方言も話し、仏教とともにチベット文語を学び、大量の借用語を受け入れてきた。両口語には一見非常によく似た能格構文があり、基本的な統語構造として機能していて、共通の類型特徴と見做されてきた。しかし両者を仔細に比較分析してみると、それぞれの言語構造が生み出したメカニズムが働いており、両者に直接の影響関係を認めることは難しく、各言語が独自にその構文を発達させてきたことを論証した。

西夏語については連携研究者の荒川慎太郎准教授が文献解読をすすめるとともに、特徴的な動詞句の構造分析を行なった。代表者の池田はこれまでに西夏語とムニャ語のあいだに見られる類型構造の対応について探究し、「馬」という語と「馬鞍」のような「馬」を含む熟語との間での音韻交替の平行性、豊富な存在動詞の類別と対応、また羌系諸語を特徴づける単語群には西夏語にもそれぞれ対応する語が存在することを指摘し、西夏語が羌系諸語に極めて近い関係にあることを実証してきた。

本研究ではさらに使役構文と自他動詞の派生システムについて両言語に対応関係が存在するか否かの解析を進めたが、人に命じて何かをさせるタイプの使役構文については、西夏語の典型例とされる例文は翻訳口調で元の言語(漢文)の構造からの影響を否定できない一方、ムニャ語にはチベット語カム方言からの影響が顕著で、両者の間に一見してそれとわかる対応を指摘することはできなかった。しかし動作の方向性を示す動詞の方向接辞に母音交替が見られる点で、両言語には特異な共通性があり、西夏語ではその文法機能はまだ完全に解明されてはいないが、ムニャ語では他動性の痕跡として使役構文中に現れる現象であることが判明した。この現象が共通の起源に由来するか否かをひきつづき探究し、西夏語における方向接辞の母音交替の文法機能についても分析を深めていきたい。

[3] 清朝における領土内の言語調査報告として編纂された《西番譯語》と呼ばれる一連の資料は、チベット=ビルマ諸語の貴重な歴史的記録である。調査対象の言語はチベット文字と音訳漢字で記録されており、これまで主要な写本について文献学的な校訂と解読が進められてきた。本研究では《西番譯語》中に記録された羌系のギャロン語、リュズ語、またチベット語カム方言について、版本を精

査して記録データを整理するとともに、記録内容について当該言語の話し手の協力のもとで現地調査による検証を行なった。

「ギャロン訳語」については、チベット文字による記録にも音訳漢字にも相当数の誤記が含まれており、その訂正と誤りの生じた原因の探究が急務であることが判明したため、誤記の分析結果の一部を整理して公表したのち、現代語との対応をもとに誤記に十分な注意を払って再校訂を行ないつつ、資料全体の解析を進めている。

「リュズ訳語」については、チベット文字による記録部分は他の「草地訳語」(西番語A:チベット語アムド方言を記録)からそのまま引用して記入したもので、リュズ語を記録してはいない。また音訳漢字による語音の記録部分についても、240語は漢語語彙を記入しているに過ぎず、結果740語の語彙項目のうち500項目の音訳漢字のみが対象言語の記録として有効であることが明らかになった。音訳漢字のみを手がかりとして記録された言語を解読し復元することはほぼ絶望的であるが、幸い大谷大学所蔵の写本が新たに公開され、記録された言語に非常に近い方言の発話協力者のもとで全項目の検証を行なうことができた。「訳語」の語彙項目の分析に先立ち、現代リュズ語方言の音韻・語彙・文法を記述して言語構造の全体像を概述し、その特色を明らかにした。

そのほか羌系諸語に直接の影響を与えたと考えられるチベット語カム方言を記録した「ダルツェンド訳語」についても、新たに公開された資料をもとに版本の比較と校訂を行ない、全項目について、同方言の話し手でもある連携研究者の達娃扎西(ダワチャシ)研究員の協力を得て全項目の検証を行なった。いずれの「訳語」資料についても語彙項目の分析を継続しており、専著の出版を目標に整理ができた項目から順次データベースへの登録を進めている。

[4] 西夏文献資料庫の仕様策定を目指し、当初は人文科学研究所の開発した漢文の拓本データベースの技術を利用して、人文科学研究所が所蔵する西夏語碑文の拓本についても同様のシステム構築が可能かどうかを検討したが、拓本の文字が鮮明でないなどの資料的問題に加え、西夏文字がユニコードに正式に登録されていないことがデータ処理上の大きな障害となった。2013年12月に中国社会科学院民族学与人类学研究所の主催で、北京にて開催された“華夷譯語”和“西夏字符”国際研討會において、ISOへの申請のための仕様策定の協議と国際的な合意がなされたものの、西夏文字がユニコードに実装されるにはまだ相当の時間がかかる見込みである。

ユニコードの規範化が完成していない段階で独自仕様のデータを蓄積してもすべて無駄になる公算が大きい。そこで西夏語の基礎語彙研究と解読の基本資料である《番漢合

時掌中珠》について、漢語語彙から対訳の西夏語を検索できるテキストデータの作成を行なった。将来の拡張を考慮して、西夏文字に代わり汎用性の高い李範文《夏漢字典》の文字番号を記入してある。テキストデータが完成すれば、《番漢合時掌中珠》の校本の書影にボタンを埋め込んでテキストとリンクさせ、誰もが利用できる西夏語の簡便かつ信頼性の高い基礎語彙データベースが実現する見込みである。

[5] 中国国内で話される50種類のチベット=ビルマ諸語の語彙の基本資料集である《藏緬語族語言詞彙》について、主編者の黄布凡教授と協議して許可を得たのち、専門の業者に外注して書籍からのデータ化を完了した。もとの書籍は1992年の刊行で、音声記号はすべて外字扱いだったため、データ化するにはすべて書籍を参照しながら打鍵入力を行なう必要があった。完成したユニコードによるテキストデータは、言語ごとに必要な語を検索して引用したり、全項目をPDFファイルで一覧して利用できるが、著作権の問題を考慮して、すべての語に書籍中の項目番号を附し、自動的に引用元が明示されるようになっている。データ利用をさらに利便化すべく、日英中国語で検索可能な索引を別途整備した。この索引はSwadeshの基礎語彙表/The Matisoff 200-word list/服部調査票(500語)/漢語方言調査手冊などと相互参照ができる仕様になっており、それぞれの研究者がこれらの調査票に基づいて集めた方言データを一括登録したり、他の調査票の見出語や番号から検索と参照ができるように設計したものである。

[6] データの相互利用を目的とした民族文字のユニコードへの登録と仕様について、国内外の関係機関の責任者と協議を行なった。彝(イ)文字については、規範彝文はユニコードにすでにエリアが確保され、パソコン上で汎用のテキストデータとして扱うことが可能であるが、彝語の古文献に見られる異体字や方言字は規範化できないため、テキストとして扱うことは不可能である。連携研究者の岩佐一枝は文献調査で撮影した異体字の写真を整理して画像データベースの作成に着手した。データベースの仕様をほぼ定めたのち、サンプルデータの登録を開始したのだが、担当者の事情により大規模な異体字データベースを構築することは困難になったため、現在はすこしずつ異体字の画像データの整理と登録作業を継続している。

[7] このほか、チベット=ビルマ諸語の類型構造の比較分析を行なうことを目的として、TB+(プラス)研究会を組織し、年度ごとに研究テーマを設定して春と秋の2回開催した。これまでに取り上げた類型構造は、名詞句の構造と使役の構造である。そのほか「TB+古漢語研究会」と題して上古漢語の音韻と文法研究の現在について、専門家の報告をもとにチベット=ビルマ語研究者との

間で相互交流を試みた。チベット=ビルマ祖語と古代漢語の祖語の再建や同源語の問題、中古漢語からの借用の認定や類型構造の違いなど、発展的な研究テーマが提示された意義は大きい。両分野を繋ぎ古漢語の正確なデータを参照するため、漢字の中古音および上古音の音韻地位データのテキスト化と検索システムを作成した。

本研究の総括として、TB+研究会での分析の成果をまとめ、チベット=ビルマ諸語の名詞句の類型構造を分析した論集を刊行した。すでにTB+研究会で情報交換と分析を深めた使役の構造についても専論を集約した論集を刊行する予定で編集を進めている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計12件)

① 池田 巧 〈呂蘇語九龍縣乃渠話概要〉(中文) 張 曦、黃成龍 (主編) 《地域稜鏡 藏羌彝走廊研究新視角2》(暫題) 北京: 學苑出版社。(査読有) 2016年内刊行予定(原稿提出済)。

② 池田 巧 〈俯瞰藏羌彝走廊的語言分布及其相關的研究課題〉(中文) 張 曦、黃成龍 (主編) 《地域稜鏡 藏羌彝走廊研究新視角2》(暫題) 北京: 學苑出版社。(査読有) 2016年内刊行予定(原稿提出済)。

③ 池田 巧 「ムニャ語の名詞句」池田 巧(編) 『シナ=チベット系諸言語の文法現象1 名詞句の構造』京都大學人文科學研究所。2016年3月。37-55頁。

④ 池田 巧 〈木雅語作格特徵〉(中文) 張 曦、黃成龍 (主編) 《地域稜鏡 藏羌彝走廊研究新視角》北京: 學苑出版社。(査読有) 2015年1月。021-033頁。

⑤ 池田 巧 〈《嘉絨譯語》研究: “聲色門”及“身體門”校釋〉(中文) 張公瑾 (主編) 《民族古籍研究》第二輯。北京: 中國社會科學出版社。2014年12月。019-030頁。

⑥ 池田 巧 「藏文注音西夏佛經 Or.12380-1842 (K.K.II.0234.k) 試釋」東方學研究論集刊行會『高田時雄教授退職記念 東方學研究論集』日英文分冊。臨川書店(査読有)。2014年6月。46-64頁。

⑦ 池田 巧 〈《嘉絨譯語》概説〉開篇単刊 No.15 『太田斎・古屋昭弘両教授還暦記念中國語學論集』好文出版(査読有)。2013年3月。153-163頁。

⑧ 池田 巧 「ムニャ語の述詞と文」澤田英夫編『チベット=ビルマ系言語の文法現象2: 文の特徴付けと下位分類』東京外國語大學アジアアフリカ言語文化研究所(査読有)。2013年3月。365-390頁。

⑨ IKEDA Takumi. Highlights in the Decipherment of the Nam Language. Nathan W.

Hill (ed.) *Mediaeval Tibeto-Burman Languages IV*. BRILL. (査読有) June. 2012. pp. 111-119.

⑩ IKEDA Takumi. Verbs of Existence in Tangut and Mu-nya. Nathan W. Hill (ed.) *Mediaeval Tibeto-Burman Languages IV*. BRILL. (査読有) June. 2012. pp.191-210.

⑪ 池田 巧 〈羌語支語言的特徵詞: 試探西夏語和羌語支的關係〉《日本東方學》第2輯。中華書局。(査読有) 2012年3月。130-146頁。

⑫ 荒川 慎太郎 「西夏語の名詞句構造について」池田 巧(編) 『シナ=チベット系諸言語の文法現象1: 名詞句の構造』京都大學人文科學研究所。2016年。57-72頁。

⑬ 荒川 慎太郎 「西夏語の3種の遠称指示代名詞の使い分けについて」『言語研究』148。2015年。103-121頁。

⑭ ARAKAWA Shintaro. Re-analysis of the Tangut verb phrase based on a study of the word order. 《西夏學》9。2014年。290-297頁。

⑮ ARAKAWA Shintaro. On the Tangut verb phrase in The Sea of Meaning. *Central Asiatic Journal*. 57. 2014:15-25.

[学会発表] (計14件)

① IKEDA Takumi. Causative Constructions in the Mu-nya Language. Paper presented for the 48th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics. 8/20-23/2015 at University of California, Santa Barbara.

② 池田 巧 「大谷大學所蔵本呂蘇(リュズ)譯語について」大谷大學博物館所蔵『華夷譯語』出版記念シンポジウム。2015年5月22日 [金] 於大谷大學

③ 池田 巧 〈呂蘇語九龍縣乃渠話概要〉(中文) 第二屆多視角藏羌彝走廊研討會。2014年11月22日至23日於中央民族大學(中國北京市)

④ 池田 巧・白瑪次木 〈迪慶藏語德欽方言明永話研究〉(中文) 第47屆國際漢藏語言暨語言學會議。2014年10月17日至19日。於雲南師範大學(雲南省昆明市)。

⑤ 池田 巧 〈解讀西夏文窺見其口語語法〉(中文) 西夏語文獻解讀研究成果發表會。2013年12月19日至20日於台灣中央研究院語言研究所。

⑥ 池田 巧 〈《嘉絨譯語》研究〉(中文) “華夷譯語”和“西夏字符”國際研討會。2013年12月7日至10日於中國社會科學院民族學與人類學研究所。

⑦ IKEDA Takumi. Verb predicate Structure in the Mu-nya language. Paper presented for 3rd Workshop on Tibeto-Burman Languages of Sichuan. September 2nd-4th. 2013. at Paris: Centre National de la Recherche Scientifique.

⑧ 池田 巧 〈木雅語的作格特徵〉(中文) 首屆多視角“藏羌彝走廊”研討會。2012年12

月 15 日至 16 日於中央民族大學(中國北京市)
⑨ IKEDA Takumi. On the “rGyalrong-Chinese vocabulary” recorded in the Qing dynasty. Paper presented for ICSTLL-45, October 26-28th, 2012. Nanyang Technological University, Singapore.

⑩ 池田 巧〈英國收藏的藏文注音夏文佛經殘片 Or. 12380-3911 試釋〉(中文) 第二屆中國少數民族古籍文獻國際學術研討會. 2012 年 7 月 13 日至 15 日於西南民族大學(中國四川省成都市).

⑪ 池田 巧〈《嘉絨譯語》初探〉(中文) 研究フォーラム: 故宮博物院・國立民族學博物館國際共同研究成果報告會. 2011 年 11 月 16 日至 18 日於國立民族學博物館.

⑫ 池田 巧〈夏譯《論語全解》研究簡記〉(中文) 第二屆西夏學國際學術論壇. 2011 年 8 月 17 日至 19 日於甘肅省武威市西涼大酒店.

⑬ 荒川 慎太郎「西夏語の文法研究—各種資料からみた文法語を例に—」『日本言語学会第 151 回大会予稿集』2015 年. 362-367 頁.

⑭ ARAKAWA Shintaro. Re-analysis of the Tangut verb phrase based on a study of the word order. 西夏語文獻解讀研究成果發表會. 2013 年 12 月 19 日至 20 日於台灣中央研究院語言研究所.

〔図書〕(計 1 件)

① 池田 巧 (編)『シナ=チベット系諸言語の文法現象 1 名詞句の構造』京都大學人文科學研究所. 2016 年 3 月. 185 頁.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

池田 巧 (IKEDA, Takumi)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 90259250

(2) 研究分担者

安岡 孝一 (YASUOKA, Koichi)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号: 20230211

(3) 連携研究者

荒川 慎太郎 (ARAKAWA, Shintaro)
東京外国語大学・アジアアフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号: 10361734